

南知多町・内海海岸の海浜リゾート構想に伴う住民の意識調査

名城大学 正会員 伊藤 政博

学生員○木畑 祐一

(株)ミタコンサルタント 正会員 村上 廣

1. はじめに

南知多の内海海岸には、夏季150万人以上の入込客があり、年間を通じて200万人以上の観光客がおとずれる。南知多町の内海新港及び隣接する内海海岸をビーチレジャー型地区の拠点とする計画が進められている。その計画の基礎資料とするために、内海地区の地元住民にアンケート調査を行った。一方、特定地域を対象にすることなく海浜リゾート構想に関連して、利用者側の要望を調べるために、本学土木工学科学生2～3年を対象にして、アンケート調査を行った。これらの調査結果に基づいて総合的に分析した結果を報告する。

2. アンケート調査概要について

- ① 海浜リゾート構想に関する地元住民及び観光関連業者の意識
- ② 利用者(名城大学理工学部土木工学科2～3年生)の海浜リゾートに対する要望

3. アンケート集計結果

アンケート調査を分析した結果、明確な結果の出たものを図-1～4に示した。

(1) 内海地区の海岸に来る人の季節的(春は3～5月、夏は6～8月、秋9～11月、冬12～2月)変動が図-1に示してある。一般の客数は実数ではなく、地元の観光業者に答えてもらった結果である。また本学学生による回答も図-1に併示してあるが、部分的に多少の違いが見られるが、同じような傾向を示している。当海岸へ行く目的としては、本学学生のアンケート調査の結果によれば

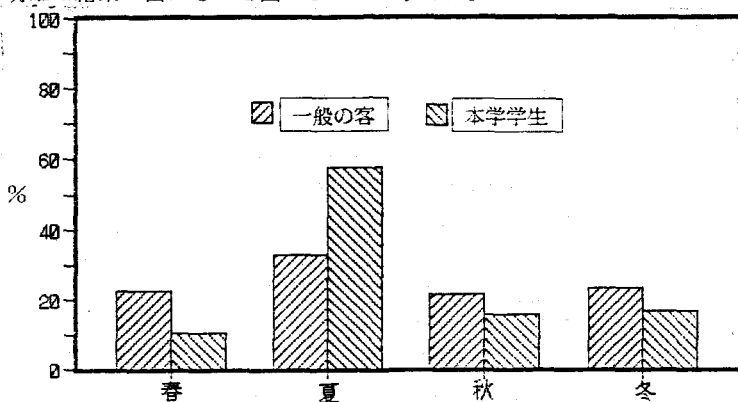


図-1 内海地区へ来る客の季節変動

「海水浴」、「ドライブ」、「散策」、「魚釣り」の順であった。一般客については、詳細は分からないが、おそらくこの様な順であろうことが、推測される。このことから、当地区の海岸は、夏集中型の海岸になっているといえよう。

(2) 図-2は利用者が、内海海岸へどのような目的で行くかについて答えてもらった結果が季節別に示してある。この図から、夏は海水浴が80%以上である。また、年間を通して多いのは、ドライブとなっている。図-1及び2から、海水浴を目的とした夏集中型の海浜であることがわかる。

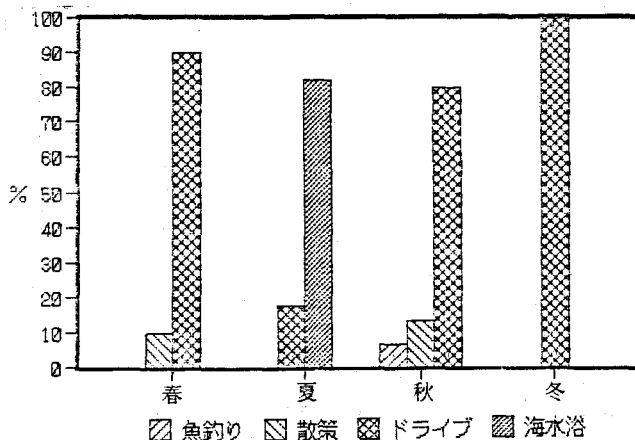


図-2 内海海岸へ行く目的(利用者)

(3) このような海水浴目的の夏集中型の海岸を整備する上で、プロムナードを計画する場合施設としてどのような付帯設備が必要であるかについて、アンケートした結果が受け入れ側と利用者側について、特に上3位までが図-3にまとめてある。この図から受け入れ側（観光業者、地元住民）は「公衆便所」を、利用者側は「無料駐車場」をそれぞれ1位に上げている。次いで、受け入れ側では、「小公園・小緑地や広場」及び「洒落た電話BOX」など、利用者側でも「幅の広い海岸通り」とい

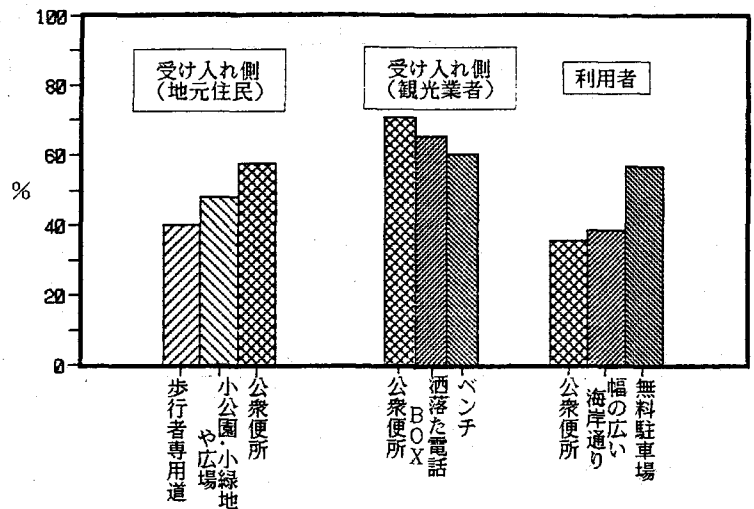


図-3 プロムナードで必要とされる施設 BEST 3

った環境の整備を要望している。このことから、受け入れ側では衛生環境面、また利用者側は、交通として自動車乗入れに伴う環境整備を強く望んでいることがわかる。

(4) 図-4には、新しいマリーナを整備する場合どのようなマリーナが欲しいかについて、地元住民及び地元観光業者にそれぞれ答えてもらった結果、上3位までが示してある。この図より、地元住民は、「宿泊施設等を備えたマリーナ」や「ヨット教育も行うマリーナ」のような、いわゆる滞在型のマリーナを求めている。一方、観光業者側では、「釣り船等の公共的マリーナ」のような本格的なスケールの大きなタイプのマリーナを望んでいる傾向がみられる。

4. まとめ

内海海岸が夏集中型になっている理由として、豊かな天然砂浜及び海水浴客に合わせた施設のみがシーズン中臨時的に整備されるためであろう。そのためオフシーズンともなると、関連施設及び宿泊施設

が少なく、殺風景な感じがする海浜となっている。従って通年型のビーチレジャー型のリゾート地を創造するためには、利用者に夏以外でも来てもらうよう、特に車でくる人を引きとめるような環境が必要である。そのためには、駐車場は勿論のこと、天然の砂浜を活用した環境整備、歩行者専用のプロムナード、小公園・緑地、洒落た電話BOXなどの海岸環境設備が必要である。さらにマリーナについても釣り船のみならず、ヨット教育、クルーザー等の本格的マリーナ等の広い客層に答えられる計画が望まれる。

5. おわりに

利用者側の調査は、本学学生（19～22歳対象）約200人程度であった。そのため、年令的に幅の狭い意見がでているものと考えられるので、今後、広い客層に対する調査が必要である。

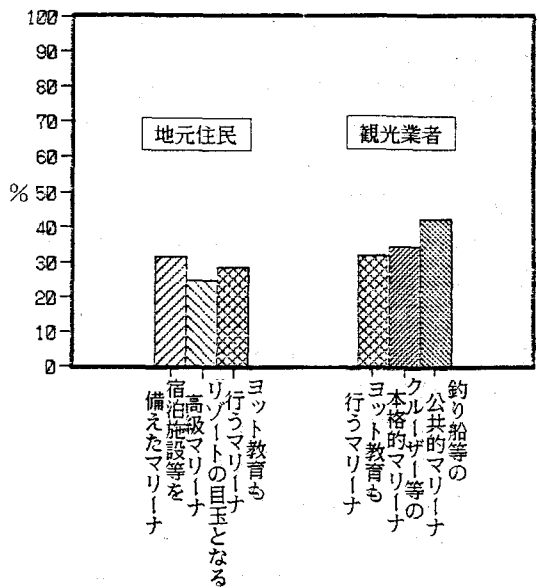


図-4 望まれるマリーナのタイプ